

空港開発と湿地の破壊：気候危機時代、環境を破壊する最悪の選択

チョン・ギョソク(グリーンコリア 事務局長)

気候危機の時代、我々は守るのか、それとも破壊するのか？政府と政界は空港拡張と新規建設を通じて「地域の発展」と「観光活性化」を叫ぶが、実際には生態系を破壊し、気候危機を深化させている行為に過ぎない。特に湿地を破壊する空港開発は、単純な開発事業を飛び越えている。気候危機対応と生物多様性保全という側面において深刻な挑戦であり障害だ。それなのに韓国をはじめとする多くの国家は、依然として慣性的な無分別な開発に没頭していて、新しい空港を推進しながら気候危機対応に対しての失敗の経路を強めるといふ愚を犯している。

空港開発と湿地破壊、環境的災害のはじまり

空港は大規模な土地開発が必要なインフラだ。自然地形が平坦で安定的な海岸沿い、川沿い、平地が主な候補地として選定されるが、これはしばしば湿地と重なる。問題はこの湿地が炭素を貯蔵し、水質を浄化し、生物多様性を維持する核心的な自然生態系という点だ。ところがこれを無視したまま空港を建設し、開発論理を掲げて正当化している。

湿地は気候危機時代にもっと保護されなくてはならない自然生態系だ。湿地は炭素吸収源として大気中の温室効果ガスを減らす役割を果たし、洪水の調節と水質浄化機能を行う。また、絶滅危惧種を含む数多くの生物が湿地を基盤として生態系を維持している。それにもかかわらず政府と企業は、湿地を開発可能な「遊休地」として扱い、空港建設のような大規模インフラ事業を強行している。これは単純な環境破壊ではなく、気候危機対応と生態系回復を全面的に遮る行為である。

すでに韓国でも空港開発で湿地破壊が深刻な問題として浮上している。インチョン（仁川）国際空港は建設の過程で、ヨンジョン（永宗）島とヨンユ（龍遊）島間の干潟を大規模に埋め立てたし、その結果、絶滅危惧種のクロツラヘラサギ、ミヤコドリなどの個体数が急減した。キメ（金海・訳注 - またはプサン）空港の拡張はまた、ナクトン（洛東）江河口のわたり鳥棲息地に直接的な影響を与えていて、セマンガム空港やはり、東アジア・オーストラリア地域フライウェイの核心湿地を完全に破壊することが予想される。

韓国で進行中の環境破壊型空港建設

現在韓国では政府と自治体がいくつもの新空港建設を推し進めていて、これは環境的災殃を招くことだろう。

チェジュ（済州）第2空港 - チェジュ（済州）島の環境的限界を無視した無責任な開発

▶ チェジュ（済州）島は既に観光客の急増により、下水処理、ゴミの処理問題が深刻な水準であり、新空港が建設されると環境破壊は手のほどこしようのない水準に達するだろう。

▶ 空港の敷地予定地は絶滅危惧種であるジムグリガエル、ハイタカなどの棲息地であり、生態系破壊を甘受しながら推進する理由がわからない。

▶ 空港ができると、さらに多くの観光客が流入し、チェジュ（済州）島の環境受容力は限界を超えてしまうだろう。

▶わたり鳥の移動経路もまた、変わることであり、国際的な生態系ネットワークが崩壊する危険がある。

セマングム空港 - 干潟とわたり鳥を犠牲にした反生態的事業

- ▶セマングム空港は、東アジア・オーストラリア地域フライウェイの核心湿地をなくす行為も同然だ。
- ▶すでにセマングム干潟は埋め立てにより、わたり鳥の個体数が急減したし、追加的な空港開発はこの地域の生態系を完全に崩壊させるだろう。
- ▶湿地保護でなく、開発のための開発だけを叫ぶ政府の無責任な形態を止めなくてはならない。
- ▶セマングム干潟は単純な自然環境ではなく、地域の市民たちにも重要な生計の場だ。

カドク（加徳）島新空港 - 政治的ポピュリズムがつくった環境破壊の象徴

- ▶プサンのカドク（加徳）島新空港は、東南圏の空港受容を理由に推進されているが、実情は政治的人気のための典型的な土建事業だ。
- ▶カドク（加徳）島もまた、重要な海洋生態系と湿地を含む地域であり、これを破壊することは回復が不可能な損失を招くだろう。
- ▶経済性と環境的持続可能性に対する綿密な検討無しに政治的論理で推進されている点で、より危険だ。
- ▶海を埋め立てる過程で海洋汚染がひどくなるだろうし、近隣地域の漁業にも致命的な被害を与えるだろう。

湿地保護は気候危機対応の核心である

湿地は単純な自然空間ではない。湿地は炭素を吸収し、貯蔵する重要な役割をしていて、気候危機対応において必須である。また、湿地は洪水被害を減らし、地域の気候均衡を維持する役割をし、水鳥とわたり鳥を含む数多くの野生動物の棲息地である。空港開発によって湿地が破壊された場合、この地域の気候調節機能が失われ、生態系復元が不可能になりうる。

湿地を守るということは人間の安寧を守ることだ。開発のために湿地を毀損することはその場の経済論理で飾ることができるが、長期的には環境災難と地域社会の崩壊へとつながる可能性がある。国際社会はすでに湿地保護を強化する方向に進んでいるし、韓国もそれに賛同しなくてはならない。

空港を増やすのではなく、減らさなければいけない

空港開発は経済的利益を理由に推進される。しかし持続可能性と生態系を犠牲にする対価は、ブーメランのように帰ってくるものだ。「環境に優しい空港開発」というウソの主張は論理的に反駁されているが、政策決定者たちのスローガンとしては依然として新鮮だ。空港拡張をやめ、航空事業自体を減縮する方向に、我々も行かなくてはならない。

韓国政府は今からでも空港建設計画を全面的に再検討し、既存の空港を効率的に運営する法案を用意しなくてはならない。また、短距離航空路線を減らし、鉄道のような環境負荷が少ない交通手段を拡充する政策を推進しなくてはならない。

今、選択しなくてはならない。守るのか、それとも破壊するのか？我々は政府と企業の無分別な開発論理を拒否し、空港拡張政策を止めるために積極的に行動しなくてはならない。湿地を破壊し、気候危機に逆行する空港開発をもうこれ以上許すことはできない。時間があまりない。